

最近、市役所の職員が色鮮やかな名札用の紐（ネクストラップ）を首にかけているのを見かけたことはありませんか。これは障害者活動支援センターで作られた「さをり」の作品で職員が個人的に購入し、利用しているものです。

「さをり」は特別な技法があるわけでもなく、織り手の自由な発想と感性を頼りに織られたもので、創始者である城みさをさんの「みさを織り」を縮めて「さをり」と名付けられました。

障害者活動支援センターでは、障がい者の持つ才能を伸ばしつつ、作品を世に送り出し、原材料費に充てています。みなさんも感性豊かな作品を味わってみませんか。



さまざまな作品があります



オリジナリティ(独創性)豊かに織られています

問 障害者活動支援センター T 88-0612 F 78-3265

プロジェクト
LOVE & LIVE

豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する調査報告⑧

住民の生活・意識とまちづくりの課題 ～調査結果から考えられること～

① 住民の生活要求…まちづくりの前提

家庭の生活要求としては、子どもの安全や高齢者の介護のことで多くの方が不安や限界を感じているようです。このほか、医療費や税金の高さに対する意見も多くみられます。

地域の生活要求としては、「青少年問題」や「高齢者問題」のほか、高齢者や障がい者が利用しやすい交通機関が少ない、交通が不便といった「交通問題」、救急や休日・夜間などの「診療体制の問題」などが挙げられます。

② 住民の地域活動とその評価…まちづくりの主体

まちづくりの主体である住民の地域活動をめぐる実情は、肯定的意見より否定的意見の比率が高くなっています。少なくともここ10年間は、地域活動が活発に展開されてきたとはあまり思われてはいないようです。

一方、全体の約3分の2の方が自治会や老人クラブなどの地域活動に参加しています。しかし、これからのまちづくりの主体である青年層は地域への関わりが希薄になっており、見過ごせない問題です。

③ 民主主義と地域問題に対する考え方…まちづくりのあり方への影響

民主主義的な考え方は進んでいます。しかし、社会的な活動に参加する女性が増えたという事実は認めつつ、一方で自治会の役員に女性が少ないことについては「それほど気にならない」というように、矛盾した表れ方をしているものがあります。地域にある具体的な問題をどう考えていくかが、これから重要になっていくと考えられます。

また、「人権」という概念が、「自分自身の人権に関する問題である」というよりも、「高齢者や障がい者、外国人、ひいては他の人々を大切にすることである」というように理解されているのではないかと予測されます。

問 大安庁舎 人権啓発課 T 78-3508 F 78-1114